

6章 資料編

1 情報提供資料

市民自治を考える市民ワークショップ ～市民参加の将来像を考える～ 日時:令和2年2月22日(土)13:00～16:00 場所:札幌市教育文化会館4階 研修室403 主催:札幌市 市民自治推進課	本日のプログラム 13:00 — 1. 開会、あいさつ 13:10 — 2. 情報提供①(20分) 13:25 — 3. ワークショップ①(40分) なぜ、市民参加が必要なのか 14:10 — 休憩(10分) 14:20 — 4. 情報提供②(10分) 14:30 — 5. ワークショップ②(65分) これからの市民参加を考える 15:35 — 6. 各グループから発表 15:50 — 7. まとめ 15:55 — 8. 閉会のあいさつ、アンケート記入
情報提供	令和 元年度 市民自治を考える市民 ワークショップ ～市民参加の将来像を考える～ 札幌市市民文化局 市民自治推進室
市民参加？ 	市民参加を知るためのキーワード その1 札幌市自治基本条例 & その2 “まちづくり”

札幌市自治基本条例

2007年（平成19年）4月～

札幌市のまちづくりの基本原則

市民が主役のまちづくりを進める、基本ルール

市民参加！

“まちづくり”

“まちづくり”

道路、建物などの社会基盤の整備
都市計画、都市開発

ごみ拾い、花植えなど美化活動
まちの文化や歴史の継承
まちの魅力づくり
地域の人たちの交流促進
子どもや高齢者の見守り

どちらも
“まちづくり”

“まちづくり”

まちづくり = 誰もが暮らしやすい
まちにするための活動全般

理想のまちにするためには…

まちづくり

安全に安心して暮らせるまちにしたい！

快適な生活環境をつくりたい！

子どももお年寄りも元気なまちにしたい！

理想のまちにするためには…

まちづくり
市民参加

安全に安心して暮らせるまちにしたい！

快適な生活環境をつくりたい！

子どももお年寄りも元気な街にしたい！

条例に定められているんです！

ポイント まちづくりと市民参加のイメージ

まちづくり

市政
ごみの有料化を計画する
公園を造る

地域活動
ごみステーションの清掃をする
公園で夏祭りを開催する

この部分で札幌市に意見を伝えたり会議に参加する

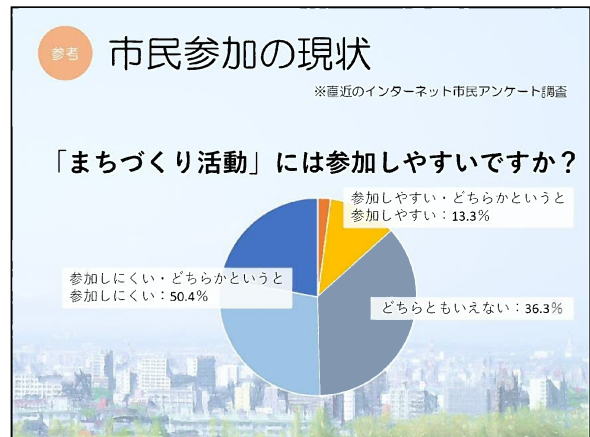
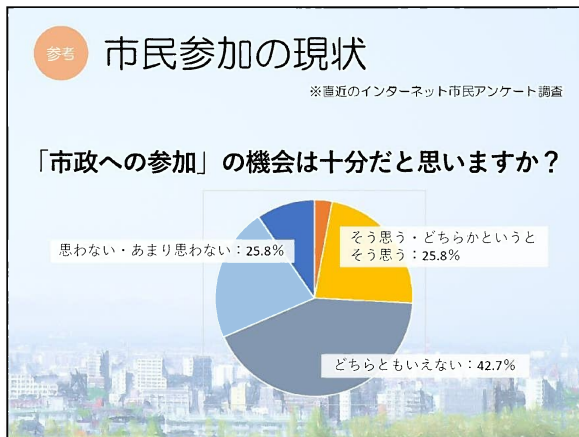
この部分で清掃やお祭りなどの活動に参加する

「市政への参加」

「（身近な）まちづくり活動への参加」

市民参加とは…

- 理想のまちにするために、まちづくり活動に参加してもらうこと
- 「市政への参加」と「（身近な）まちづくり活動への参加」の2つ



- 1. 市政への参加**
- ①アンケート
 - ・市政に関してアンケートに答えてもらいます。
 - ②パブリックコメント
 - ・計画や条例の最終案を作る前に、事前に公表し、市民の皆さんに意見を聴くことをいいます。
 - ③全市的なテーマのワークショップ
 - ・ワークショップで行政や施策などに理解を深めてもらいながら、意見などを出してもらいます。
 - ④審議会・委員会への参加(公募委員)
 - ・審議会は、市からの意見を求められた事項を調査・審査し、それに対する意見を述べる機関です。

①アンケート調査

令和元年度第3回市民参画協議会

「市民参画調査へのご協力をお願いいたします」

～あなたの声をまちづくりに～

札幌市

札幌市では、市民参画協議会を開催し、市民の声をまちづくりに活かすことを目的として、市民参画調査を実施しています。市民参画調査とは、市民の声をまちづくりに活かすための調査です。市民参画調査の結果は、市民参画協議会の資料として活用されます。市民参画調査にご協力をお願いします。

● 市民参画調査の目的

● 市民参画調査の対象

● 市民参画調査の方法

● 市民参画調査の日程

● 市民参画調査の問い合わせ先

「市民参画調査」の概要

市民参画調査は、市民の声をまちづくりに活かすための調査です。市民参画調査の結果は、市民参画協議会の資料として活用されます。市民参画調査にご協力をお願いします。

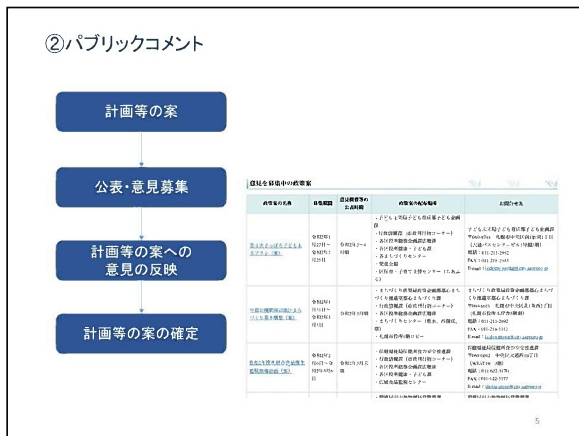
● 市民参画調査の目的

● 市民参画調査の対象

● 市民参画調査の方法

● 市民参画調査の日程

● 市民参画調査の問い合わせ先



2. まちづくり活動(コミュニティ活動)への参加

- ①町内会活動
- ②身近なまちづくりへの参加
(地域レベルのワークショップ)
- ③NPO活動
- ④PTA活動
- ⑤ボランティア活動

9

①町内会活動への参加

ごみステーションの管理・清掃活動



10

町内会での除排雪



パートナーシップ排雪

11

災害時の助け合い



12

高齢者の見守り



13

②身近なまちづくりへの参加 (地域レベルのワークショップ)



町内会について考えるワークショップ

14

③NPOなどの活動



ゲストハウスにおける学童保育

札幌市清田区 北野の子ども食堂

富士見市の子育てサロン「ミッキーマーカダブ」

15

④PTA活動



交通安全運動

読み聞かせ活動

PTAバザー

16

⑤ボランティア活動



清掃ボランティアgreenbird



森林ボランティア



観光ボランティアガイド

17

3. 新たな市民参加

- Facebookのグループ機能を使い、市政について自由に意見交換

大分市(SNSを活用した市民参加ミーティング)

- 議題と期間を設定
- SNSであげられた意見について大分市が考え方や今後の対応を検討

18

新たな市民参加

クラウドファンディング

- 渋谷に行ったときや仕事帰りに気軽に立ち寄れて、飲みに行ったついでに本が借りられる。
- 渋谷に深夜1時まで利用できる「夜の図書館」がある。
- 夜の図書館は、クラウドファンディングで1700人以上から9,400千円以上の資金を集めてつくられました。



19

クラウドファンディング



子育て中のママたちが
家庭から地域へ 地域から社会へ ソフトランディングしていけるよう
子育て中のママたちがスタッフとなって
『地域社会と母翼をつなぐ活動』をしています！

20

ワークショップ1

なぜ、市民参加が必要なのか

- ①市政レベルの市民参加の必要性
- ②まちづくり・地域コミュニティでの市民参加の必要性

21

情報提供 2

これからの市民参加を考える

22

まち・地域コミュニティで起きていること

高齢化に伴う課題の顕在化

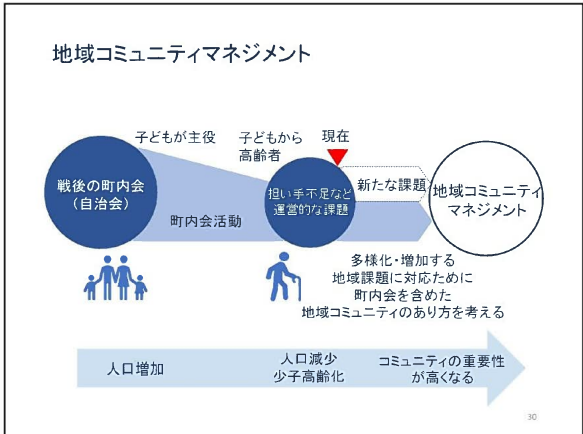
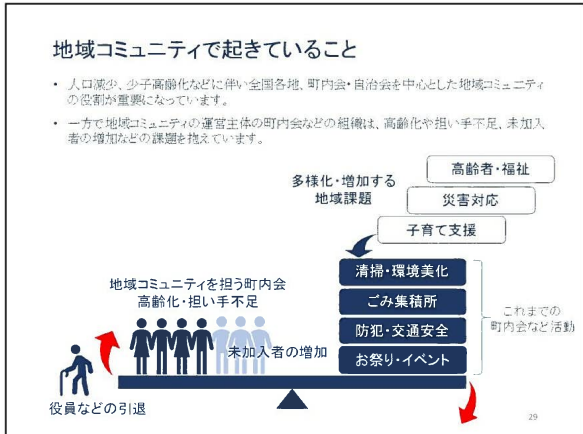


23

地域での子育て支援



24



札幌市 西区ふくい会館



- 2014年に閉鎖となった幼稚園の払い下げを受けて、会館をリノベーションした。
- 多様な活動の場として広く利用されており、収益を生んでいる。



33

コミュニティ の場

- 若い世代も寄りたくなる交流スペースを設けて団地の再生をスタート



埼玉県三郷市 みさと団地 多世代コミュニティ拠点“みさとのおみせ m@sakinaみあきな”

34

空き家活用



- ゲストハウスで学童保育
- 町内会と連携してまち歩きツアーなどを検討中

35

空き家活用

- 空き家を資源として活用するため、5年間の期限付きで、空き家所有者に物件を提供してもらい、利用者を募集してストック循環。



ハウスハルデン(ドイツ ライプツィヒ)

36

空き地活用

- 誰でも自由に参加できる新しいコミュニティの場を創出。
- 空き地を市民で共有し、庭としての機能だけでなく、教育や研究のための重要なネットワークにもなっている



アーバンガーデン(ドイツ ベルリン)

37

にぎわい



38

シェア



39

ワークショップ2

- これからどのような市民参加が考えられるか
これからの社会課題などを参考に考えてみてください
- これからの市民参加のアイデア
情報提供のあり方や市民参加のアイデアを考えてみてください

40

2 アンケート票

「市民自治を考える市民ワークショップ」 アンケート

今後の参考にさせていただきますので、以下のアンケートにご協力下さい。

質問1 「市民自治を考える市民ワークショップ」に参加して

(1) 参加された感想をお聞かせ下さい。最もあてはまるもの1つに「○」をつけてください。

- () ① 大変満足 () ② 満足 () ③ 不満足
() ④ 大変不満足 () ⑤ その他【 】

(2) (1) で「①大変満足」「②満足」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 市政に参加できたから () ② 他の人の意見を聞くことができたから
() ③ 報酬がもらえるから () ④ 新しい気づきや発見があったから
() ⑤ その他【 】

(3) (1) で「③不満足」「④大変不満足」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 有意義な話し合いができなかったから () ② 市政について理解できなかったから
() ③ 思ったより大変だったから
() ④ その他【 】

質問2 情報提供について

(1) 市民参加の現状、新たな市民参加、これからの市民参加などの情報提供について、あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 分かりやすかった () ② 大変参考になった
() ③ もう少し詳しく聞きたかった () ④ よくわからなかった
() ⑤ その他【 】

(2) (1) で「④よくわからなかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 内容が難しい () ② 説明が不十分
() ③ 用語が難しい () ④ 話が聞き取りにくい
() ⑤ 説明の時間が短い () ⑥ その他【 】

質問3 話し合いについて

(1) 話し合いの方法について、あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 話しやすい方法だった () ② 最初はなかなか言葉が出にくかった
() ③ 話しづらかった () ④ その他()

(2) (1) で「③話しづらかった」とご回答された方にお伺いします。その理由は何ですか。(自由回答)

質問4 参加して得たものは何ですか。あてはまるもの全てに「○」をつけてください。

- () ① 市民参加への理解が深まった
() ② 市民参加への関心が高まった
() ③ 自分の考えを整理することができた () ④ 他の人の意見が参考になった
() ⑤ 意見を言うことの難しさを感じた () ⑥ 特に何もなかった
() ⑦ その他【 】

裏面に続きます

() ① 市民の意見が反映されるので良いことだと思う
() ② 専門家で実施した方が良いと思う
() ③ より多くの市民が参加できる工夫が必要だと思う
() ④ その他【

() ① ぜひ参加したい () ② 参加したくない
() ③ どちらとも言えない () ④ その他

理由

(2) あなたの年代を教えてください。あてはまるもの1つに「○」をつけてください。

() ①20代	() ②30代	() ③40代
() ④50代	() ⑤60代	() ⑥70歳以上

--

44

3 グループごとの意見

(1) テーマ1 『なぜ、市民参加が必要なのか』における各グループの意見

1) A グループ

○参加の経験

■身近なまちづくり

- ・ 地域の見守りや活動をイメージする。
- ・ 町内会の活動のイメージ。班長の経験がある。
- ・ 夏祭りのイメージを持っている。
- ・ PTA の活動がある。そのイメージを持っている。

■市政

- ・ 市長とのタウンミーティングの経験がある。

○参加の必要性

■暮らしを支える役割

- ・ 暮らしを支えることに必要だと思う（ごみの管理、除雪、排雪）。
- ・ まちづくりや暮らしを良くするために改善していくとその意見を言う機会が必要だと思う。

■情報共有、提供

- ・ まちづくりの方針などを直接聞くことができる。
- ・ 直接的にいろいろと話ができると満足度がある。
- ・ 透明性を高めるために必要だと思う（目的、経過、事業者はだれか）。

■社会情勢の変化

- ・ 町内会の組織が以前はしっかりしていたが、意見の吸い上げが難しくなっていると感じる。
- ・ 直接的に意見交換できる場がもっと必要と思う（テレビなど）。

■必要ではあるが、反映されたのかわからない

- ・ 市政には意見を言ってもなかなか反映されていないような気がする。
- ・ 必要性は感じるが、反映されるのか分からない。情報が滞るイメージがある。

2) Bグループ

○参加の経験

■市政、選挙

- ・選挙は義務のため、行く機会があれば行くようにしている。
- ・市民に関心や興味を持つ。
- ・市民としてのメリット、特典が得られるかもしれない。
- ・自分たちが安心して暮らすために行う。
- ・何かあった時に助けがある。
- ・安心感のあるまちになる。

○参加の必要性

■自分が地域にいることの義務

- ・暮らしているのならば、地域のことを考えるべきである。
- ・自分たちの地域のことは自分たちでやるべきである。
- ・地域に住んでいることの自分自身への認知のためだ。
- ・参加せずに決まってしまうのが嫌だ。
- ・参加しないと文句も言えないからだ。
- ・未来への投資や貢献として参加する。
- ・高齢者も頭、体をつかうため、よい。
- ・子どもたちの遊び場である。
- ・地域は多世代の交流の場だ。
- ・健康に関わってくる。
- ・若い人にも参加していただく。

■市民参加、しづらい理由・課題

- ・市政が身近ではないため。
- ・忙しい人は関心すらない。
- ・市民参加をするためのきっかけづくりが必要と感じる。
- ・手を貸してほしい人と協力したい人がマッチングしていない。
- ・そもそも活動を知らない。参加したいと思っていても知らないため、繋がらない。
- ・情報発信ツール、広報もネットもわざわざ見ていない。

3) C グループ

○参加の経験

■身近なまちづくり

- ・みんなの不満は何か。
- ・考え方が世代で分かれている。

■ボランティア活動

- ・草むしり（退職した後）をしたい。
- ・病院へのイベント企画をやりたい。
- ・入院者への本の貸出をしたい。
- ・子どものボランティアをやりたい。
- ・自転車レース（3-5 歳）したい。
- ・興味がある。
- ・参加したくなる。
- ・楽しさがある。

■地域の活動

- ・報酬がある。
- ・児童会館（餅つき大会・木育）に行くため。
- ・豚汁づくりをするため。
- ・PTA 活動を行っているため。
- ・若い人のイベントが多いから。
- ・老人クラブの方の活動があるため。

○参加の必要性

■市政レベル

- ・情報が伝わっていない。
- ・みんなでサポートできる体制づくり必要だ。
- ・子育て支援（体制を整える・困っている所に支援）をどうしたらいいのか。
- ・課題：雪・子どもの放課後・高齢者・教育（まちづくりや福祉・環境）がある。
- ・写真で情報発信（丘珠空港）してほしい。
- ・札幌の市営交通を考えるなど、全市に関わる取組を進めるために必要ではないか。

4) D グループ

○市民参加の経験

■以前の市民参加（身近なまちづくり）

- ・住民同士の結束が強かった気がする（団地）。
- ・色んな世代が集まって話し合うのが楽しかった。
- ・年に2、3回集まって地区ごとに話し合っていた。

■現在の市民参加のイメージ（身近なまちづくり）

- ・多様性が認められていない世の中になっている。
- ・声の大きい人が目立つ、意見が通ってしまう。
- ・共感の言葉がある。
- ・言いつぱなしになっていることもあると感じる。
- ・意見が反映されるのか、分からない。

○市民参加の必要性

- ・快適な生活をしていく為に必要と感じる。
- ・除雪の順番が回ってきていた、生活面で大事だと感じる。
- ・地域に住んでいるからわかることがたくさんあると思う。

■市民参加のイメージ

- ・町内会活動
- ・参加していたら町の流れが見える。
- ・町内会は年配の人がいるイメージがある。
- ・家庭を持つと町内会へのイメージ変わる。
- ・消防訓練に出たことがある。
- ・ボランティア活動だと感じる。
- ・子ども会など、子どものつながりを通じて地域でのつながりができる。
- ・PTA 活動は「なるほど。」と思った。
- ・都会に引越してきたばかりだと、だれが地元の人かわからない。
- ・「よし、市民活動をやろう。」となると敷居が高い。身近なところから行動するのが良いと思う。
- ・周りの人で厚真に行った時の写真を SNS にアップするなどしていた。

■町内会以外から自然と・・・

- ・町内会よりもやる人が中心にいる。
- ・地方に行くと町内会という意識があまりなく、自然とできているのかもしれない。
- ・知らず知らずのうちにやっている活動ありそう。
- ・輪番制のような強制力も時には必要なのかもしれないと思う。

■あったらいいこと、やっていきたいこと

- ・自分から少しでも進んで集まりに参加することも大事だ。
- ・みんなで集まれる場所が欲しい。多様な考えが共有できるといいと思う。

5) E グループ

○市民参加の経験

■市政への参加のイメージ

- ・ 固いイメージ、参加のきっかけや情報がない。
- ・ 今日のワークショップが初の市政参加である。
- ・ 行政という固いイメージがある。

○市民参加の必要性

■市民の意見を反映させるために、参加は必要である。

- ・ 市政への参加のきっかけがない。
- ・ 知る機会がない。テレビの CM などあると良いのだろうか。
- ・ マスコミの報道がないと情報が入ってこない。
- ・ 市全体で考えている市民は少ない単位での情報発信や参加のきっかけがあると良い。

(2) テーマ2『これからの市民参加を考える』における各グループの意見

1) A グループ

○これからの市政参加

■情報（気軽に受け取れる）

- ・テレビで市政の情報を受け取るようにしている。
- ・コミュニティレベルにおちる、J-COM など有線の番組でも良いと思う。
- ・インターネットが普及しているので、それを利用している。
- ・ママ友はLINE で情報交換している。
- ・スマホで情報を受け取っているので、LINE が良い。
- ・市政の情報はLINE を使って出してもらいたい⇒国からでもいいのではないかなと思う。
- ・SNS で情報提供があると良い。登録するとインセンティブがあると良い。
- ・楽天などのサービスポイントと連携して使えたと良いのではないかなと思う。
- ・気軽に意見を言えるツールを駆使する。

■直接的なコミュニケーション（Face to Face）

- ・直接会話や意見を言える機会は必要と感じる。
- ・地域レベルの意見交換の場をもっとたくさんつくっていく事が大事だと感じる。
- ・いろいろな主体の人が集まる機会をつくりたい。
- ・福祉、交通情報や町内会以外の人も参加することが良いと思う。
- ・なかなかボランティアとして活動に参加するのは難しい。

○参加の仕組み

■地域レベルの参加の機会

■町内会だけでなく、地域レベルで意見を吸い上げる機会をつくる

- ・暮らしに役立つ重要な情報は町内会が持っている。
- ・企業など、エリアを取りまとめる役割を担うと良い。
- ・ポイント付与があるとメリットが志、地域、企業にも出ると思う。

2) B グループ

これからの市民参加を促すためのアイデア

○情報発信・共有

- ・自分の周り（生活圏）に情報がない。
- ・活動を知らない。
- ・マッチングしていないと感じる。
- ・関心がない。
- ・身近ではない。
- ・自分に当てはまらない。

○市政への参加

- ・海外の取組などについて、視察を議員さんではなく一般市民から募集したい。
- ・海外の事例を調べて取り入れたい。
- ・市外の人を集めて、意見を聞きたい。
- ・企業に協力してもらいたい（チラシ置く、協賛）。
- ・このアイデア自体について、企業のノウハウを教えてもらいたい。
- ・生活サイクルの中に情報があると良いと感じる。
- ・人がいるところに情報を集めたい！（スーパー、地下鉄）
- ・まちセンで情報を発信するなら 24 時間対応を検討してもらいたい。
- ・医療機関同士では情報を共有している。
- ・ダイレクトメールで発信元が怪しくないものが良い。
- ・メールでの WEB アンケートでも良いと思う。
- ・口コミは信頼できる。
- ・市役所に来た人に誘ってみる。

○身近なまちづくりへの参加

- ・イベントに参加、協賛する。
- ・広告のスペース（場所を貸す）を設ける。
- ・講演を実施する。
- ・夜カフェ（若い方、働いている人）を開く。
- ・時間帯を変える。
- ・土日に地域の活動が実施されると、子ども達は普段地域活動に実施しない父親や親子で参加することができる。
- ・子ども・お父さんの関心を引くターゲット別のイベントがあると良い（アイドル・カードゲーム・劇・景品など）。
- ・学生にボランティア参加してもらおう（学習・除雪）など、子どもたちから市政に参加してもらおう習慣を作る。
- ・外国の方にもどんどん活躍してもらおう。

- ・ボランティア活動の様子を市民が観て、さらに地域活動に参加してもらいたい。
- ・地域にどんな方が住んでいるかわかると、参加しやすいと思う。参加も声かけやすい。
- ・主催は気軽にできたほうが良いと感じる。

3) C グループ

○これからの市民参加

- ・市の考え方が伝わっていない。
- ・参加しやすくなる情報の提供が必要ではないか。

■既存の場を利活用

- ・掲示板活用（スーパー・地下鉄・学校・お店・スタバ）をする。
- ・飲食店のトイレ・地下鉄の広告・バス・図書館・コンビニなどが良い。
- ・市民参加について SNS、人から（いろいろな職・立場）の口コミを活用するのはどうか。
- ・達成感があるものが良い。
- ・地域に貢献したいというメリット（ポイント制）があればどうか。
- ・経験がメリットに（看護など）なる。
- ・PTA 活動（こどもにメリットがある）を活用する。
- ・個人の意見がどのように反映されるのだろうか？よく分からない。
- ・外国の方との触れ合いなどの活動が必要である。
- ・市が運営する無料保育園での親子のケアがあったらよい。
- ・子育て支援があればよい？
- ・民間、食品の余ったものを母子家庭などに届ける支援はどうだろうか？
- ・カフェを地域のいろいろな人が朝から利用でき、さらにリーズナブルだとよい。高齢者だけ利用するわけではない。
- ・地域であると良いなというものは、子ども食堂、認知症の方が働いている場所などがあると良い。

4) Dグループ

○市民活動していく為に必要なこと

- ・副業まではいかなくても、市民活動に参加できる機会をつくりたい。
- ・楽しいのが一番よい！
- ・一人で行きやすい居酒屋のように、自分の居場所があると良い。
- ・活動の拠点がもっとあると良いと感じる。
- ・市からの情報ってやさしいのかもしれないが、敷居が高く感じる（言葉として）。
- ・手を上げやすい環境づくりが大事である。
- ・ボランティアだけでなく、報酬をもらえると参加しやすいのかもしれない。
- ・交通費や他の報酬等があればよい。

■フリースペースがあると良い

- ・創生スクエアにフリースペースがあり、とても良い！
- ・若者、社会人も気軽に使用できるものがあると良い。
- ・各区に図書館があつたら良い。
- ・図書館では絵本の読み聞かせを行ったり、小さい子から高齢者までが利用している。
- ・やってみることで楽しさを知って次につながっていくと思う。

■ネットワークづくり

- ・周りネットワークをつくる（おさそい）。
- ・好きなこと、関心あることから市民参加につながっていくと良い。
- ・自然にできるといい！
- ・年代別・ジャンル（所属別）のWSを開催する等はどうだろうか。
- ・子どもが大きくなると、一時期地域から離れる気がする。
- ・ガーデニング好き、興味のあるものでつながっていくことはできないだろうか？
- ・きっかけの為に登録制のネットワークづくりをしてみる。
- ・子どものつながりで親同士のネットワークをしてみる。
- ・SNSで日頃からボランティアなどのネットワークを作っておく。

■子ども食堂

- ・原点は共働き家庭が増えてきたことだが、偏見の目が最近では増えている。
- ・子ども食堂に行っているから貧困の目で見られる例もある。
- ・自分の職業（レストラン）からフードロスのことを考えたことがある。
- ・児童会館や町内会館のような（かつ今風な）施設があるとよい。
- ・こども食堂の原点となるものがあると良い。
- ・関わる層を広げることで偏見の目がなくなるのではないだろうか？

■ご近所人材バンク

- ・近所人材バンクを行ってはどうか。
- ・人出が少ないので、技術ごとに自分の得意を活かせる機会があればよい。
- ・シルバー人材等に限定をせずにつくってみる。
- ・色んな世代に参加してもらおう。

○参加のきっかけ

- ・行政の人だからと線引きするのはどうだろうか？そういう機会があってもいいと思う。
- ・無作為の効果で強制力があり、参加のきっかけになって新しい意見も出てくると感じる。

○最近感じていること

- ・役所の人にはなぜ自分の生活があるのに、市民参加を忘れているように感じる。
- ・どういう分野の活動が足りていないかわからない。
- ・情報がありすぎるのではないかな？
- ・施設を造るなどの際に上の人意見だけだとあまり良くない。
- ・現場の声を聞くことが大切だと思う（市民参加大切）。
- ・想像力が弱くなってきていると感じる。
- ・選挙の重要性、若い人たちへ伝えたらよいのではないかな？

5) E グループ

○地域

- ・町内会役員や、当番をやっている。
- ・町内会活動に参加している（会議、ごみ、清掃）。
- ・町内会は地域が暮らしやすいように、地域の為に活動している。そこに行政からのお願いが来ている。
- ・今町内会でやっていることは、本来行政がやることではないか？それを市民にお願いしていると思う。
- ・地域がそれぞれ良いと、札幌市が良くなると思う。
- ・町内会同士の横のつながりや情報交換があると良い。
- ・PTA 活動に参加している。
- ・ボランティアなどやっている。
- ・お寺でカフェサロンをできると良い。
- ・単身高齢者の集まりに参加しているが、徐々に運営側への参加者も増やしていけると良い。

○市民参加により地域のニーズを把握

- ・地域の課題を解決して、住みたいまちにするために市民参加が必要と感じる。
- ・災害時のことも考えると、地域コミュニティがしっかりしていると良いと感じる。
- ・避難所の運営方法などの、対応の仕方について行政から情報がない。
- ・地域の課題等の、テーマを決めて市民参加型の意見交換会が必要である。
- ・地域単位で市民レベルのニーズや意見を見える化することが必要と感じる。
- ・ここに住みたいというまちにしていく為の住民の意見を聞けると良い。

○情報発信

- ・マスコミを活用する（お金はかかるけど）。
- ・スマホで WEB 広告を出す。
- ・参加したくなるような情報の出し方をするのはどうか？
- ・何に困っていて、市民の参加が必要なのか伝える。
- ・SNS を活用する。

○リモートでの参加

- ・リモート等の技術を使って、WS もみんなで集まらなくてもできるようにするのがよい。
- ・リモートで市長とのコミュニケーションの場を作れると良い（決められた時間に）。
- ・ご高齢の方もデジタルツールが簡単に活用できるようにする仕組みをつくる。

○参加して何か変わると良い！フィードバック

- ・参加し甲斐がありますし、参加すると楽しい。
- ・参加した結果何か変わると良い。
- ・今日のような会に参加することで参加者からそのまわりの人たちへ波及していく。
- ・報酬をつける（お金やお弁当など）。
- ・いっても何も変わらないと思っても、言わなきゃ、やらなきゃ何も変わらないと思う。
- ・若い人はネット中心、孤独を感じている人の方が多い。

- ・電話やメールの方がコミュニケーション取りやすい。
- ・ワークショップでの意見がどう扱われるか、結果や過程が見えると良い。
- ・意見が通るような体質づくりをしてけると良い。

○助け合いの仕組み

- ・困りごとを自分で解決できない人がある。
- ・助けてあげたい人とのマッチングの仕組みがあると良い。
- ・ボランティア貯金の仕組みがあると良い。
- ・ネットワークづくりが大切。できることやスキルを活かしたいけどどうすればよいのか？
- ・助けた時にポイントがもらえて、困った時にそのポイントを使える仕組みを地域で作れると良い。
- ・町内会やNPOなどとマッチングする仲介役が必要だ。個人同士だと不安がある。
- ・回覧板で困りごとを書いて拾い上げると良いのではないかと？会館など、場の活用ができると良い。

○地域でシェア

- ・町内会で小さい除雪機買って、地域でシェアする（非課税の補助を！）。
- ・不用品の情報を回覧板で共有している（道新がサービスの仲介している）。

○参加のきっかけ

- ・回覧板は良い仕組みである。
 - ・町内会加入者にしか情報が行き届かない。
 - ・未加入者や日頃参加しない人にも知ってもらえれば良いと思う（最初の1回）。
 - ・地域のことを良く知っているのは女性の方が多い。
 - ・子どもが小さいとママ友などが地域に多いと感じる。
- 子どもが大きくなると関わりが減っていくとも感じている。
- ・知っている人がいないと参加しづらい、楽しそうなら参加するのではないかと？
 - ・ターゲットに合わせて魅力ある取り組みも行っていく必要があると思う。

○区単位での取り組み

- ・区ごとの力を入れていきたい方針や取り組みを示し、区民の声を集められるようにする。
- ・区のキャラクターに発信してもらう。

○子どもの教育

- ・学校単位でボランティアなどに参加してもらう。
- ・小中高で職業体験やっている。
- ・子どもたちへの教育が大切だ。
- ・市民参加を大人がしていないからピンとこないのかもしれない。
- ・子どもがまちづくりのゲームをやっているため、授業などで取り上げても良いと思う。
- ・ゲーム会社と組んで何か開発したりPRできると良い。
- ・きっかけはゲームで学ぶ。